



北嶺

■発行 / 山梨県立北杜高等学校
■編集 / 北杜高校 PTA 広報委員会
〒408-0023
山梨県北杜市長坂町渋沢 1007-19
TEL 0551-20-4025
URL <http://hokutoh.kai.ed.jp>
■発行日 / 令和5年3月1日
■印刷 / (有)小宮山プリント社



本年度のPTA活動を振り返って

PTA会長 氏家達也

コロナ禍で本年度も活動は難しいのでは…と、感じていました。コロナ禍での活動は誰もわからない、その時の状況判断が正しいのか、本当にいいのかと誰もが葛藤があったはず。ですが、コロナ禍でも活動をする事で生徒活動に協力出来ていると感じる事が増えていきました。この厳しい状況下でも参加して下さい、地域の方々、先生・保護者の皆様には心より感謝申し上げます。



北の杜で人を育てる

校長 河手由美香

コロナ禍の日々、様々な困難を皆で力を合わせて乗り越えてきました。その経験が、未来を拓くたくましさを育みました。教育は、人との出会いを通じて互いに触発されることで一人ひとりの可能性を広げていくものであり、学校は、一人ひとりが大切にされた記憶を持てる場でありたいと考えます。今後も北杜の人作りに励みます。

特別対談 vol.2

教頭ズ!?

本校に教頭先生がふたりいる！
なんで？何が違うの？その秘密に迫る！

仕事内容に違いは？

米山正仁第一教頭：本校は総合学科で、常勤の職員だけで60人を超えます。私は授業を担当せず、教員の意見を汲みながら、外部や県との調整などを行っています。たとえば、「白菜ができれば生徒達と鍋をしたい」という教員の思いを聴きつつ、「でもコロナ禍だから……」と感染状況を鑑みて判断する、とか。

数野浩司第二教頭：自分は家庭科の授業を担当しています。生徒の話を聴きたくて、まずは自分をさらけ出して向き合っています。アンケート等では汲みきれない、生徒の声を直接聴くことができることが、授業を担当している教頭の強みです。

米山：一方で、授業をもっていない教頭の強みは、一日、教員の様子を見たり聴いたりして専念できることです。

数野：性格も違う。米山教頭は太っ腹で、ドーンと大きな器で、安心して相談できる頼もしさがある。

米山：数野教頭は、順序立てて、ロジカルに話を組み立てるのが上手い。両方のタイプがいるのが本校の強みとも言えます。

数野：ある意味、好きな方を選んで相談などしてもらったらいいい（笑）。



北杜高校の印象は？

米山：生徒がイイ。素直。ただとても従順なので、自分はこうしたい！とか、もっとやりたい！とか、もう少し自分の考えや欲があってもいい。

数野：それぞれが幼い時から、すごく頑張ってきたことを感じる。周囲の人のために優しい笑顔をしてくれるけれど、その笑顔の裏には、ずっと頑張ってきた姿があるんだろうな、と感じています。

教頭という立場で育みたいものは？

数野：本校の目標でもある「自己実現」を果たしてもらいたい。それは、高校時代だけでなく、進学して、就職して、一生涯、死ぬまで続く。自分のことを理解して、周囲の人と付き合うスキルを磨いて、一人で抱えこまずに楽に生きられるようになってほしい。ちょうど、今日の『保育と発達』の授業で、来週は「クリスマスパーティをやりたい」という声があって、話し合いをしました。私は何も言わずに、生徒が意見を出し合って進めます。そのなかで、持ち寄るプレゼントの金額を500円にするか1000円にするかで意見が割れた。理由を探っていくと、どちらも「みんなを喜ばせたい」という思いがあることがわかったんですね。こんなふうにお互いの思いを分かち合いながら「みんなが豊かになれる形」を見つけていけるようにサポートしていきたいと思っています。

米山：コロナで色々制限がありますが、本当は色んなことを経験させてやりたい。教室に30人の人がいれば、好きな人もいれば気が合わない人もいて、そういう環境で色んなことを経験できるのが、本来の学校という場。コロナ禍でも諦めずに、どうにかやれないか、試行錯誤しています。



第一教頭 米山正仁

石和出身。農学部を卒業後、山梨に戻りたいと教員に。本校3年目。赴任した春、残雪と桜を同時に楽しめる北杜の絶景に感動した。



第二教頭 数野浩司

甲府出身。数々の職を経た後、管理栄養士を目指して大学院へ入学後、高校の家庭科教諭に転身。趣味は料理と旅行の行程表づくり。

お世話になりました！

今年度で退職される先生方

どんなお仕事でしたか？



丸茂義親 農場長

38年の教員生活のうち32年を北杜高校（旧峡北農業高校含む）で過ごす。19年前より農場長として農場全体の運営管理を手がける。趣味は畑と田んぼ。周りの山を眺めながら、今日もきれいだなあ……と、のんびりと。

農業に対する理解者を育てる

農場長の仕事は「農業予算の統括的なこと」。本校では、野菜、果樹、草花、米……と多様な作物を育てているため、おそらく大規模農場を1つ経営しているくらいの仕事量だろう、という。

教員生活で印象的だったことは？と問えば「平成7年に、生徒達と、小瀬スポーツ公園に植花をしたこと。2000個のプランターと量が多く、真夏で暑くて大変だったけど、生徒達も頑張って、きれいに飾ることができた。大変だったこと、辛かったことこそよく覚えていますよね」と即答。

近年は、直接農業の道に進む生徒は少なくなっている。「環境保全に役立っているんだ、とか、食糧を確保することは大切な分野だ、といった学びを通じて、農業に対する理解

者を育てていると思っています」。その視点からも、総合学科を設置したことは「農業に触れて理解してくれる人が増えた」と評価している。

最後に一言。「北杜高校の生徒達は素直で、質はとても良い。もっと欲を出してもいいんだぞ！」



生徒たちと4年かけて育てたジャンボシクラメン。「シクラメンが一番好きな花。1年以上手をかけて、ようやく花が咲く。やはり大変なことが一番楽しい」。



京嶋修 事務長

山梨県職員として林務や企業局、議会事務局など様々な部署を経て、7年前から学校事務室へ。北杜高校は2年目。小さな頃から本が好き。好きな本は？「何でも読みますが、五木寛之の小説やエッセイなんかが好きですね」。

目には見えない大きなものをつくる

学校事務の仕事は「先生方が教育に全力を注げるように、教育以外の必要な事務をサポートする仕事です」。そのほか、学校の中の備品の購入や修繕の計画、生徒の授業料や通学証明書や卒業証明書のことなど、仕事の範囲は多岐にわたる。

県の職員は2年か3年で異動があり、「4月、5月はいつも一所懸命に仕事を覚える時期。部署によって仕事の内容がまったく異なるので、臨機応変に対応できる力が求められます。でも、どこの仕事でも、やり始めると夢中になりますね」。

いろんな人と話し合いながら事業計画を立て、課長、次長、部長、知事……と根気強く話を進めていく。「成功すると嬉しいし、達成感がある。家や橋のように目には見えないけ

れど、同じくらい大きなことを任せられることもあり、やりがいのある仕事でしたね」と振り返る。

「北杜高校は、恵まれた環境の中で体験学習ができる高校。県下の生徒に大勢来てもらいたい！」



高校生ってもっとひねくれているかと思っていただけれど、北杜高校生は素直で、よく挨拶してくれます。たくさん元気をもらいました！



フェスタ「杜のきらめき」 10月28日

秋風が吹く中、第二十回フェスタ「杜のきらめき」が開催されました。

総合学科の各系列と文化系部活動の発表や模擬店の出店が行われ、PTAからは、赤飯作り、バザー、模擬店で協力させていただきました。

参加は生徒とその家族、教職員に限られておりましたが、模擬店においては、ハケ岳パイ工房さんのご協力で、パイを販売し、開店から数十分で完売してしまうほどの盛況ぶりでした。



秋の交通安全指導 10月12日～14日



学校前、オオムラサキセンター交差点前、富岡三差路交差点の3箇所の横断歩道にて、16時から17時の時間帯で、生活保健委員会による交通安全指導を実施しました。

信号待ちの巻き込みに留意した安全な立ち位置や、横断前の安全確認など、意識して確認することの必要性が伝わる指導を行いました。



先生・保護者による声かけは、夕方になると肌寒く感じる日でしたが、マスク越しにも笑顔があふれて、心温まるひと時でした。心にゆとりをもつことで、危険予知も冷静に行えるのではないかと感じました。日常の何気ない一幕ですが、生徒への愛情が伝わってきました。事故は一瞬、怪我は自分持ちです。日頃から安全確認を行い、元気に登下校してほしいと思いました。

3カ年皆勤賞および外郭団体表彰者の紹介を、ホームページで公開しています。
右のQRコードよりご覧ください。





強歩大会 10月12日



秋晴れの天気の中、3年ぶりの強歩大会が開催されました。

今回より男女共に24kmのコースとなり、3年生においては、最初で最後となる強歩大会を、皆それぞれの思いで満喫しているようでした。

また、今回は氏家達也 PTA 会長もランナーとして参加し、最後尾から各ポイントを回り、サポートに入られた教職員の皆様や、PTAの方々を見回りつつゴールいたしました。



薬物乱用防止教室 11月25日

美しい紅葉の葉も散り始め、寒い冬を迎える季節となった11月下旬、全校生徒を対象に、「薬物乱用防止教室」が開催されました。

講師は山梨県警北杜警察署生活安全課の守屋公貴さん（校長先生の元教え子だそうです）と、北杜警察署スクールサポーターの原敬一さんです。スライドを使いながら生徒たちに伝わりやすい言葉で、薬物の危険性についてお話されていました。

特に印象的だったのが「大麻」の誤った知識のお話。高校生も検挙されており、20歳未満のなんと9割近くが、「大麻は危険ではない」と思っているというデータが提示されました。「タバコより害は少ない」「依存性はない」などの誤った知識により、年々検挙率が増加しているそうです。特に近年ではSNS等で簡単に取引できるようになり、大麻は「チョコ」「ワックス」「野菜」、覚醒剤は「アイス」「スピード」などの隠語で取引されるようです。北杜市でも逮捕者が出ており、薬物使用の危険は「遠いどこかの出来事」ではなく、とても身近な出来事になっていることを知りました。

薬物に手を出す理由は様々ですが、我々保護者は、常に薬物乱用の危険について心のどこかに置いておく必要があると感じました。守屋さんは、「薬物を一度でも使うと、二度と元の身体には戻れない！」と、強く訴えておられました。

講義の終わりには、生徒から「インターネットでの取引の取り締まり方法は？」「山梨県内で検挙者が多い地域は？」等の質問も出されました。生徒達が最後まで背筋を伸ばしてじっくりと話に耳を傾けている姿が印象的でした。



編集後記

この3年間のコロナ禍を、広報委員としてPTA活動に携ってきました。1年目はPTA活動の多くが中止となり、取材記事に事欠く状態の中、原稿作成にはとても苦労しました。今年は、各行事が再開し、北嶺祭や、フェスタ「杜のきらめき」、さらに強歩大会も行うことができました。生徒たちや先生方、PTAの方々の活動を、少しでも伝えることができているのであれば、幸いです。

広報委員長 林辺